

早い日暮れに秋を感じつつも、いつまでも続く昼間の暑さに閉口していましたが、ようやく本格的な秋になってきました。

現在会員登録数 3,617 人さま。次号は 11 月 20 日発行の予定です！

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 再スタート 10 周年 一次の 10 年のためにー 記念寄付のお願い

昨年 11 月からの 1 年間、移転 10 周年記念寄付キャンペーンを実施中（10 月 31 日まで）です。1 万円以上ご寄付いただいた方全員に、富安陽子さんのサイン本（抽選）、佐々木マキさんデザイン「イイクロちゃん」グッズセット、当財団発行の報告集の中からおひとつプレゼントしています。

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#special

● 「日本児童文学学会 第 60 回研究大会」の開催

11 月 20 日・21 日に、日本児童文学学会第 60 回研究大会を、当財団を事務局として、大阪府立中央図書館およびオンラインで開催します。文芸評論家の斎藤美奈子さんによる講演会もあります。会員でない方もオンラインで参加可能です。

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」イベントページから

<https://childrensliterature60.peatix.com>

詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html#60kenkyutai

● オンライン講座「2020 年に出版された子どもの本から」視聴受付中！

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」イベントページから

<https://2020kodomonohon.peatix.com>

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 「第 38 回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集 ※10 月 31 日まで

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#38boshu

- 研究紀要の原稿募集 ※10月31日まで

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

- YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

- 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

----- ■
【2】コラム
----- ■

《1》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『めいたんていサムくんとなぞの地図』 那須正幹/作 はたこうしろう/絵
童心社 2021年10月 対象年齢：小学校低学年以上

あらすじ：小学2年生の「めいたんていサムくん」は、古い空き家が火事になったと聞いて、そのあとをタケシくんとミサトちゃんに見に行く。そして手描きの地図上に「寶」の文字が4か所ある紙が入った封筒を見つける。3人と3年生のあんごうマンことマコトくんは、宝の場所を探しあて、過去に4体のお地蔵さんがあったところだとわかる。今も残っている4体目のお地蔵さんの前を掘ると、そこからガラス瓶に入ったビー玉が出てきた。サムくんたちが火事のあった家の持ち主のおばあさんに持っていくと、戦争で亡くなった兄からの贈り物だと告げられる。シリーズ3作目。

T：ことしの7月22日に急逝された那須正幹さんの遺作です。著者校正は間に合ったそうですが、あとがきがありません。最後まで読んですぐに奥付になってしまって、せつない気持ちになりました。

Y：推理の要素があり、地図を頼りに子どもたちが自分たちで宝を探す。男女混合の3人組に異学年の少年も交ざって「子どもたんてい団」を結成し、なかまがいる楽しさが感じられる。自分たちの住んでいる町の歴史を知ることになる。最後は戦争とのかかわりが描かれる、など、これまで那須さんが大切にされていたことがぎゅっとつまった作品だと思いました。

T：読んでみると、過去の那須さんの作品とイメージが重なります。デビュー作『首なし地ぞうの宝』（学研 1972年）とは宝さがしだけでなく、宝を埋めた目印の地蔵が出てくるところが重なり、地図を読み解いていくのは『ぼくらの地図旅行』（福音館書店 1989年）と、なかまは、もちろん、「ズッコケ三人組」と重なります。宝がガラスびんに入っていたというのは、『ズッコケ三人組の卒業式』（ポプラ社 2004年）でハカセが自前のタイムカプセルにインスタントコーヒーの空瓶を使ったことと重なりました。那須さんがこれまで書いてきたものを低学年向けに再話したシリーズだとも思います。

那須さんには、おしまい作品というつもりはなかったと思いますけれども、これまでの仕事まとめのようにも見えてきます。

Y：作品の最後の文は、「だって、子どもたんてい団 さいしょの じけんを
みごと かいけつできたのですから。」で終わります。「つぎの じけん」を
読みたかったなあと思いつつ、これまでの那須さんの作品に感謝の気持ち
が沸き上がってきました。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第74回「山男の四月」（下）

疎外されたものたち

薬をのまされて体が小さくなり、一箱の「六神丸」になってしまった山男は、
とじこめられた行李のなかで「きさまが町へはいったら、おれはすぐ、この支
那人はあやしいやつだとどなってやる。」と怒ります。それを聞いた「支那人」
は、しばらくしいんとしてしまい、山男は、「両手を胸で重ねて泣いているの
かな」と思ったくらいでした。そして、「支那人」は、しわがれた声でいうの
です。——「それ、あまり同情ない。わたし商売たたない。」山男は、「もう支
那人が、あんまり気の毒になってしまって、おれのからだなどは、支那人が六
十銭もうけて宿屋に行つて、鯛の頭や菜っ葉汁をたべるかわりにくれてやろ
う」と思います。

こんなふうを考える山男をいぶかしく思ったのか、益田勝実はいいます。
——「漂泊の異国人と山の異族とには、平野の普通の暮らしをしている日本
人には理解しがたいような、通じ合うものが底を流れている、と賢治は考え
ているのか。」（益田『山男の四月』、萬田務他編『作品論 宮沢賢治』所収
1984年）

山男を侵入者によって山に追いやられた先住民とするのは、前回も紹介した
安藤恭子の『宮沢賢治〈力〉の構造』（1996年）です。「山男の四月」の山男も、
にしね山からふらふら歩き出して、「町へは行って行くとすれば、化けないと
なぐり殺される。」とひとりごとをいって、町の入口で木こりに化けます。安
藤は、山男を疎外されたもの（きらわれもの、のけもの）としますが、「支那人」
も同様でしょう。山男には、「支那人」への共感があったのでしょうか。

宮沢賢治の生前唯一の童話集の書名は、最初は『山男の四月』の予定だったと
いう調査があります（恩田逸夫「宮沢賢治の童話」1976年参照）。結局、『注文
の多い料理店』（1924年）として刊行された童話集の広告ちらしには「都会文
明と放恣な階級とに対するやむにやまれない反感です。」と書かれていて、こ
れは、作品「注文の多い料理店」についての説明の一部です。「注文の多い料
理店」で鉄砲をかついで山奥に踏み込んでくるのは二人の若い紳士ですが、
「山男の四月」が疎外されたものを描いた背後にも、侵入者への「反感」がひ
びいているようにも思います。「漂泊の異国人と山の異族」を疎外し、ないが
しろにしている人々＝侵入者への「反感」を読み取ってしまうのです。

（馬車別当）

（本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 28

うしろから肩をたたかれたのは、改札口をでて、地下街への階段をおりかけたときだった。

マッポ（警官）だな。そう直感したのは、たたいた手が、そのまま太一の肩をじんわりつかんだからだ。ゆっくりふりむくと、白い開襟シャツを着た、中年の男が立っていた。

（『さぎ師たちの空』 那須正幹/作 関屋敏隆/絵 ポプラ社 1992年9月）

この作品が出版されたとき、読んでおもしろかったという記憶がありました。再読してびっくり。よくこれが課題図書になったなあと正直思っていました。

引用は、冒頭の部分。中学2年生の太一は、不良グループのお金を10万円盗んで広島から大阪に出てきたところで、のちにアンポという名だとわかるこの男につかまります。男は、警官のふりをしてお金とバッグを預かりますが、行方をくらまします。太一は男にだまされたことを知ります。

太一が無銭飲食をしようとしたラーメン屋の隣に座ったのが、この男。太一がラーメン屋でラーメンに異物が入ったといちゃもんをつけてラーメン屋をだまそうとすると、ラーメン屋にぼこぼこに殴られ、アンポは太一を自分の家に連れて帰って介抱します。

そこからもびっくりとどきどきの連続。アンポは仲間たちと、鮮やかな手法のさぎ事件を繰り広げます。太一もいろいろな役どころで協力します。まずは、アンポが弁護士に化けてラーメン屋から慰謝料をとろうとし、次に、代議士になりたがっている男からお金をだましとり、ホテルの幽霊を除霊し、暴力団に茶碗を売りつけようとします。

アンポと太一は疑似親子のような関係になっていきます。そしてついに大失敗をしかし、アンポも太一も犯罪の代償を支払うことになります。太一は、アンポの本名や、なぜアンポと名乗っているかを知ることになりますが、そこには、戦争や60年代安保闘争がかかわっています。

関西弁がユーモラスで、世の中の厳しさをしっかり描きつつ、アウトサイダーの人たちのたくましさや人とのつながりの深さが描かれている点が魅力です。権力を否定し続けてきた那須さんならではの作品だと思いました。（Y）

《4》行って来ました！

神戸ゆかりの美術館で、12月19日まで開催されている特別展「ミロコマチコいきものたちはわたしのかがみ」に行ってきました。画家・絵本作家ミロコマチコの近作・新作を中心とした絵画や絵本原画、書籍の装画、立体作品など約

250 点が展示されています。

美術館のエントランスに入ったとたん、立体絵本作品のカモシカやクマが描きこまれた山車が目に飛び込んできて、ミロコさんの世界に引き込まれます。入口を入ったところにはミロコさんの「いきもののわたし」という短い文章があります。そこには、夜に虫を観察していると、虫に「お前はいきものか？」と問われたような気がした」というエピソードがあり、なぜ、ミロコさんが絵を描くのか。なぜ、いきものを描くのかということが書かれていました。

「近作」は、ライブペインティング作品などが中心で、猫や馬などの動物が描かれた大きな作品がずらりと並んでいます。どの絵もこちらに迫ってくる感じがして、後ずさりするようにして見ていきました。ガラス越しにとまった蛾や蝶を描いた「光をはさんで見えるもの」と「チョウにうつす」という作品は、ガラスの内側にいる人の姿が虫に映りこんだような絵で、命を見つめているような人の目が印象に残りました。

「装画、ディレクション」の章は、本の装画として描かれたユーモラスな動物たち、「味の手帖」の表紙として描かれたおいしそうな食べ物、百貨店のクリスマスのディスプレイ用の絵などがあり、色彩豊かで楽しい気分になりました。

「絵本原画」には『けもののおいがしてきたぞ』（岩崎書店 2016年）『まっくらやみのまっくら』（小学館 2017年）『ドクルジン』（垂紀書房 2019年）の原画がありました。どの作品も自然のパワーに圧倒されました。

「新作」は、2019年にミロコさんが奄美大島に移住してからの作品です。作品からは、自然によりそい、じっと耳をかたむけるような静かさが感じられました。そして、こんな作品を描くミロコさんからどんな絵本ができるのだろうと楽しみになりながら、会場をあとにしました。（K）

展覧会公式サイト

<https://mirocomachiko-cm.exhibit.jp/>

■ ----- ■

【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

● 日本近代文学会 関西支部 秋季大会

小特集「児童文学研究と文学館」

講演「大阪国際児童文学振興財団の10年と児童文学研究の新しい可能性」

宮川健郎（大阪国際児童文学振興財団理事長） ほか

日時：11月14日（日）11：00～18：10

会場：オンライン（Zoom ウェビナー） ※事前申し込みが必要

主催：日本近代文学会関西支部

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へ

お問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

■ ----- ■
今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『めいたんていサムくんとなぞの地図』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.134 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は11月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

お寺や、空き店舗なども会場にして、絵画、造形、楽器演奏など、盛りだくさんの地域の芸術祭をお手伝いしています。2年ごとの開催で今年がその年ですが、検温、消毒、換気用の扇風機などの感染予防対策の手配や、そのための人員確保など準備に大わらわ。多くの方々に芸術の秋を満喫していただければとがんばっています。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp